

2020年3月

歴史 — No. 20

# けんぱくものしりシート

# 民間備荒録



『民間備荒録』。なんだか難しそうな名前の本ね。だれが書いたのかしら？

ハクちゃん



解説員

この本は、江戸時代に一関藩の藩医をしていた建部清庵(1712~1782年)によって書かれたのよ。彼はすぐれた医師として人びとから尊敬されていて、「一関に過ぎたる(とてもすぐれている)ものは二つあり、時の太鼓(城下に時刻を知らせる太鼓)に、建部清庵」とうたわれるほどだったの。



いつごろ書かれた本なの？

ケンくん

『民間備荒録』上巻 見返し



この本は、江戸時代中期の1755(宝暦5)年に書かれたわ。

この本によると、この年は、旧暦の5月中旬から異常な低温となって、8月末まで雨が降り続き、初冬を思わせるような寒さだったのよ。そのため稲は育たず、ようやく穂はでたものの実らず枯れてしまい、東北地方はききん(作物が実らず、食べる物がすっかりなくなって、うえ死にする人がでること)になったと書かれているわ。東北地方に大きな被害をもたらした宝暦の大ききんのことよ。



ききんでうえている人びとに  
おかゆを分け与えている場面

この時、建部清庵は、食べ物求めて、やせ細った人びとがたくさん集まってくる姿を目にして、日ごろの農民へのお礼に医師としてできることをしようと決意したの。

そこで、中国などの古い本をもとに、医師としての知識もくわえて、ききんへの対策をまとめた『民間備荒録』(上下二巻)を、その年の12月に書きあげたの。清庵が43歳の時だったわ。



この本を受けとった一関藩では、さっそくこれを数十部書き写して村々に配ったの。その結果、多くの人が救われたというわ。



おもしろくなってきたね。この本の中身をもっと教えて。



この本の上巻では、ききんに備えて、ナツメ、クリ、カキ、クワなど、実のなる木をふだんから植えておくことをすすめているのよ。

また、ききんに備えて食べ物を蓄える方法も書かれているわ。



下巻では、人びとをうえから救うために、一関藩とその周りの山野にはえている植物から、カタクリや、ワラビ、タンポポ、ショウブ、

そして、トチの実やドングリなど食料になる85種類の植物をあげて、その食べ方を紹介しているのよ。

そのほか、うえ死にしそうな人や、草や木の葉を食べ



【トチの実】

【ドングリ】



『民間備荒録』は、清庵が書きおえてから16年後の1771(明和8)

年に、江戸から出版されたの。ききんの対策をまとめた本

としては、日本で初めての出版だったわ。その後もききんが

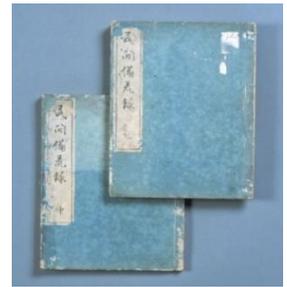
起こるたびに版を重ねて、全国に知られるようになったのよ。

それに、この年、清庵は『民間備荒録』にあげた植物を中

心に、104種類の植物を図をいれて紹介した『備荒草木図』

(上下二巻)もまとめているのよ。この本は清庵の死後、

1833(天保4)年の大ききの時に出版されているわ。



『民間備荒録』  
1834(天保5)年刊行



一関市内の釣山公園には、市民によって造られた「清庵野草園」があって、清庵の

本で紹介している植物が植えられているわ。

近くに行ったらよってみてね。



参考 『民間備荒録—江戸時代の飢饉と救荒書』 一関市博物館 2002年

『民間備荒録』一関市博物館ホームページ / 『日本農業全書』第18巻 社団法人農山漁村文化協会 1983年 他

来月(4月)の

けんぱくものしりシートは

民俗—20だよ!

おたのしみに!



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34  
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214  
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/

※「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。  
※「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。